

- E 人** 「イヤイヤ期の食事問題、これけっこう悩みですよね」
- A 太** 「親にとってはイライラ期(笑)」
- B 斗** 「叱ってから後悔する、の繰り返し」
- D 也** 「妻からは“叱る”じゃなくて、“伝えてあげる”の!と毎回怒られてます。あまりに直らないので半紙に“叱らない”と筆書きして冷蔵庫に貼られました」
- A 太** 「そんな書初めヤダ(笑)。でもそれ効きそうだわ〜」(一同爆笑)
- B 斗** 「過剰に手をかけすぎるとよくないと思う。子どもが“してはいけないこと”を自発的にどこかで自分で気づいてくれるようにならないと」
- C 郎** 「どうしても大人のペースに合わせようとしてしまうよね。子どもには子どものペースがある」
- D 也** 「結局、子どもの成長を待ったほうがいい、という結論?」
- E 人** 「当たり前だけど、そうかもね。食べるのもちょっとずつ早くなってくるから」
- A 太** (メニューを見ながら)「ちょっと女将さん、この角煮ちょうだい。あと焼き鳥盛り合わせもね」
- 女将** 「心配しなさんな、オトナになるとこんなに食べるの早くなるんだから(笑)」

## 子どもの成長は自分の成長

- C 郎** 「うちは1歳3か月。子育てはわからないことだらけだけど、とにかく可愛くてしかたない!」
- A 太** 「何やっても許せちゃうでしょ?」
- C 郎** 「それでもやっぱり叱ることはあるよ。ただ、妻からのルールとして“夫婦ふたり同時に叱るのはやめよう”と言われてる。たしかにそう思うんだけど、妻の顔をうかがいながら子どもを叱るという、ちょっと悩ましい状態(笑)」
- B 斗** 「奥さんが子どもを叱ったあとは、旦那さんがちゃんと“よしよし”とフォローしてあげるのは大事だよ。ふたりで叱ってしまうと、

子どもの逃げ場がなくなってしまうから。僕がやるのは、叱ったあとに子どもと一緒に風呂に入って、どうして叱られたのかをちゃんと子どもが理解するまでやさしく諭してあげること。つい大人の都合で叱ってしまった場合は、子どもにちゃんと謝る」

- A 太** 「お風呂タイムでフォローですか……。僕もお風呂は一緒に入るけど、まだおしゃべりできる月齢ではないから、センパイ、今後の参考にさせていただきます(笑)」
- B 斗** 「ま、なんだかんだ言っても、子どもの成長ぶりは見ていて楽しいよね」
- D 也** 「僕のやってる筋トレを真似して、腹筋運動できたの見たときは感動したね〜」
- A 太** 「帰宅したボクを見て、テンションがあがる時。つかまり立ちしてニコニコしてくれるのがうれしい。本当は眠いだろうに一生懸命ガマンしてくれてね」
- E 人** 「自分でお茶碗を持つことができた姿は、何枚撮ったかわかんないくらい写真撮った」
- B 斗** 「オムツが外れたときの抱き心地の変化に成長を感じたね〜」
- A 太** 「それまでできなかったことが、ある日を境に急にできるようになったときにヨロコビを感じるのが、父親のツボなんですよ〜」



成長の瞬間を  
何枚も写真に  
おさめたよ!

## 「オトコの趣味」を続けるための 駆け引き

- B 斗** 「子どもと一緒にできる趣味があるといいよね。うちは野菜作りが好きで、子どもと一緒に植えたり育てたりして遊んでる」
- A 太** 「C郎さんはクラシックカーが趣味ですよ〜ね」

ママのストレスを  
抜いてあげて  
“衝突回避”



- C 郎** 「妻と知り合う前から好きだったし、趣味をわかってもらったうえで一緒になったから、いちおう“公認”ってことになる感じ?」
- D 也** 「なんでそこ疑問形になるの(笑)」
- C 郎** 「県外のイベントに遠征していくことが多いんだけど、子どもが生まれてからは自粛中なのよ。仲間から誘いの電話が来たときとかさ、わざと妻に聞こえるように断ってみたりして」
- A 太** 「地味に戦ってますね〜(笑)」
- B 斗** 「何度もジャブを繰り返しながら“行ってくれば?”のセリフを待っている、と」
- D 也** 「駆け引きだよ〜」
- E 人** 「許可をスムーズにもらうためにも、家のことお手伝いしてポイント貯めとかないと」
- C 郎** 「そう、当店は等価交換だから」(一同笑い)
- A 太** 「今日の飲み会だってそう。ギリギリにならないと、言い出せなかったよね」
- B 斗** 「年末みたいに忘年会が続く季節は、2回目以降の飲み会は言いづらい…」
- E 人** 「私の仲間で、毎回同級会を欠席するやつがいて、どうしてかな〜といつも思ってたけど、結婚して子どもができたいまとなってはその気持ち痛いほどわかる(泣)」
- C 郎** 「妻からはリビングのカレンダーに自分の予定を記入するよう言われてるんだけど、マジメに飲み会とかいろいろ予定を書き込んでたら、ある日“書いたからって、それぜんぶ決まったことじゃないんだからね!”とキレられちゃって」

- B 斗** 「まずは私に相談してよ、ってことでしょ」
- C 郎** 「でも、男性のほうが付き合いは多い、想像以上にいっぱいある、ということは妻にはわかってほしいよね」
- 女将** 「……つたく、好き勝手ばかり言って。あなたたち、奥さんに電話しちゃうわよ〜」
- 一同** 「あ〜、それだけは勘弁して!」
- E 人** 「カミさんに対してのやさしさアピールも大事ってことですよ。何かやってます?」
- A 太** 「“いかにも手伝ってる感”を出すのは好きじゃないので、あくまでさりげなく洗い物を手伝うとか……」
- B 斗** 「ママひとりですっきりお風呂に入れるように、僕と子どもで先に一緒に入る。毎日子ども優先で自分はササッと入浴をすませる妻が“久しぶりにくつろげた”と喜んでくれます」
- D 也** 「僕はマッサージが得意なので、全身くまなく揉みほぐしてあげてます」
- E 人** 「夫婦共通の趣味を持つのもいいですよ。うちはお互いTVドラマが好きなので、子育てと関係ない会話をしてあげると、気分転換になるみたい」
- C 郎** 「うちは家事が落ち着いてからの夫婦の時間を大切にしている。俺の帰りは夜9時ごろだから、それから風呂入って、子どもを寝かしつけて、夜11時ごろから夫婦の時間。“コーヒー飲む?”って声かけて、美味しいのを一杯淹れてあげる。ゆったりと飲みながら、その日起こった出来事とかグチとか聞いてあげる」
- A 太** 「カッコいい〜。そのキラークレーズ、いただきます!」
- E 人** 「それじゃみなさん、理想の夫婦関係についてまだまだ語り足りないでしょうから、そろそろ二次会に……」
- 女将** 「そうそう、そういえばウチのお客さんに、子育て世代の夫婦の心理に詳しい先生がいたわよ。その先生に相談してみる? ただし、アルコール抜きで、ね!」
- 一同** 「ギャフン!」

作戦